

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	学校名 稲敷市立あすま北小学校 対 象 全校児童78人, 保護者・地域の方（希望者）25人 （内訳）1年10人 2年13人 3年16人 4年7人 5年14人 6年18人 保護者15人 地域10人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（特別活動） ② 行事名（パラリンピック集会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	○ 車いすバスケット選手として努力する姿に共感し、障害者と健常者が共に生きる共生社会を実現させていこうとする心を育てる。 道徳的価値【低：感動 中：相互理解 高：よりよく生きる喜び】
5 取組内容	1 事前 (1) パラリンピック集会に向けた事前指導 ① 実施時期 12月6日(水)・11日(月)・12日(火) ② 内 容 ・「I'm POSSIBLE」を活用し、オリンピックやパラリンピックに対する関心を高めるとともに、予備知識を付ける。 ・パラリンピックの映像を視聴し、競技への興味・関心を高める。 (2) パラリンピック事前集会 ① 日 時 12月19日（火）13：05～13：40 ② 内 容 パラリンピック集会を翌日に控え、リデジャネイロパラリンピックに出場した車いすバスケットボールチームの試合を視聴し、関心を高める。全校児童78名が参加した。 2 当日 「パラリンピック集会」 ① 日 時 12月20日（水）13：20～14：30 ② 場 所 体育館 ③ 講 師 NPO法人インフィニティ （埼玉ライオンズ車いすバスケットボールチーム） ④ 内 容 ア 選手の話1 「車いすバスケの選手として日頃努力していること」

イ 実技 (ア) 5人によるデモンストレーション

(イ) 模擬試合 6年生児童

(ウ) 競技用車いす試乗体験 (全児童)

ウ 質問コーナー

エ 選手の話2 「これからの共社会の実現に向けて」



3 事後 (1) 各学級による振り返り (話し合い活動)

(2) パラリンピック集会に対する感想の記入

4 2020 東京大会マスコット選定

(1) 3つの候補の校内掲示期間 1月 9日 (火) ~12日 (金)

(2) 大会マスコットの選定 1月15日 (月) ~19日 (金)

○ 各クラスで学級会を開き決定。

6 主な成果

- ・オリンピック・パラリンピックに対する知識を身に付けたことで、2020 東京大会に対する思いが強くなった。
- ・「I'm POSSIBLE」を活用することで、パラリンピックをより身近に感じることができた。
- ・事前集会では、動画を用いることで視覚的にわかりやすく当日に向けた興味・関心を高めることができた。
- ・実際にパラリンピックに出場したり、今後のパラリンピックを目指す選手の話やプレーを見て交流することで、共生社会の重要性を感じ、その実現に向けた心を育てることができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- ・パラリンピック集会に向けた事前指導を段階的に進めたことで児童は集会当日に高い興味と関心をもって臨むことができた。
- ・事前の打合せを行い、児童主体の集会活動となるよう進めた。
- ・実際のプレーを間近で見たり、競技用の車いすを操作したりして、体験活動を伴う集会活動にした。
- ・ねらいにあった話をさせていただくことで児童の心を育てたこと。

8 主な課題等

- ・2020 大会に向けて、興味・関心をいかに継続していくか?
- ・共生社会の実現に向けて、他の教科領域と関連付けながらさらに心を育てていくこと。

9 来年度以降の実施予定

- ・各教科や学級活動、道徳の年間指導計画に位置付けるなど、関連のある中で指導を継続する。